

平成 30 年度
千葉大学先進科学プログラム入学者選考課題
課題論述
人間科学関連分野 方式Ⅱ
(9:30 - 11:00)

注意事項

1. 以下の問題すべてに解答してください。
2. 検査室に用意してある資料、電卓は自由に使用してもかまいません。
また、持参した教科書、辞書（辞典）、ノートなどを参照してもかまいません。ただし、パソコンの使用は禁止します。
3. 携帯電話、スマートフォンの電源を必ず切ってください。

下の文章Ⅰ・文章Ⅱ、および図A・B・Cは、ティム・インゴルド著『ラインズ——線の文化史』（工藤晋訳、左右社、2014年）の第一章からの引用です。それぞれの文章と図は、発話と歌の区別が、時代や地域によって多様であることを示唆しています。これらの資料を踏まえた上で、次の問い（1～3）に答えなさい。

文章Ⅰ

著作権上の理由により掲載できません。

問1

下線部①において、筆者は“「古典的」伝統”という言葉**を強調するために、あえてカギ括弧を付けています。**“「古典的」伝統”とは具体的にどのようなもので、なぜそれを強調しているのでしょうか。次の(1)、(2)に答えなさい。

- (1) 近代以前における発話と歌、言語と楽音の関係についての考え方を、簡潔にまとめて述べなさい。
- (2) “「古典的」伝統”について具体的に述べ、それを強調している理由を説明しなさい。

文章Ⅱ

著作権上の理由により掲載できません。

注2 純粋音楽とは、音楽以外の制約から解かれ、他の芸術と結びついていない純粋な音楽を意味する。

問2

下線部②において、武満徹が述べるところの“不利益”とは具体的にどのようなものでしょうか。言語と発話について、次の(1)、(2)に答えなさい。

- (1) ソシユールに代表される言語と発話についての近代的理解を簡潔にまとめて述べなさい。
- (2) 言語と発話についての近代的理解と現代音楽における音と言葉の関係を比較し、武満徹の考える音楽にとっての“不利益”とは何か、説明しなさい。

著作権上の理由により掲載できません。

著作権上の理由により掲載できません。

著作権上の理由により掲載できません。

問3

近代において、発話と歌はまったく異なるものであると理解されるようになった経緯は、いったいどのようなものなのでしょう。

文章Ⅰ・Ⅱを参照しながら、図A・B・Cを解釈して説明し、あなた自身の推論を具体的に述べなさい。